

賛否意見書

ふくしま市産官学連携プラットフォーム
事務局 御中

令和6年5月31日

所属機関_____

氏 名_____

私は、令和5年度外部評価委員会の議題について、資料を精査した結果、次のとおり、賛否意見を提出します。

【議 題（意見聴取事項）】（賛否に○印で示して下さい）

- | | | | |
|----------------------|----------------------------|---|----------------------------|
| (1) 令和5年度事業の実績報告について | ☐ 賛 | ・ | ☐ 否 |
| (2) 令和5年度決算の見通しについて | ☐ 賛 | ・ | ☐ 否 |

【意見等】

特に改善に関して 2 名の委員から下記の意見がありました。

とうほう地域総合研究所 編集長 諸根 様

【福島市の人口推計】 令和 6 年 4 月 1 日（動態は令和 6 年 3 月）

272,489 人（対前期比▲1,368 人）

内訳）社会動態 ▲1,145 名（転入-転出）

自然動態 ▲223 名（出生-死亡）

若者の県外流出や出生率の低下が課題。

【人口戦略会議報告書】

自治体	2050年人口			2020年	
	若年女性人口 減少率（%）	若年女性 人口	総人口	若年女性 人口	総人口
福島市	▲44.8	14,891	209,049	26,996	282,693

若い世代が将来に夢を持ち「福島で働きたい」「福島に住み続けたい」と思われるよう、自然減と社会減の両面からの対策が必要。

◆全国的に人口減少が課題となる中、福島県においては特に大学進学時や就業の年齢に該当する女性の転出超過が著しい。福島市においても若い世代の居住人口に加え、市外・県外から福島市を訪れる学生や社会人などの交流人口の維持拡大が大きな課題である。そのためには、若い世代を惹きつける魅力的な大学や就業先が増やすような取り組みを継続して実施することが肝要であるとする。その意味で「福島市産学官連携プラットフォーム」の取組は、大変有意義であり根気強く継続願いたい。

◆一方、様々な事業を実行しているが、実施すること自体が目的になってはいないか？事業の企画がその場限りのエピソードに頼るのではなく、事業目的を明確化したうえで、合理的な根拠に基づくものであること（EBPM）の検証が必要ではないかと考える。

三育保育園 園長 山崎 様

令和 5 年度の事業実施状況の報告ありがとうございました。

人材育成及び地域活性化プロジェクトについては、報告にもあるように地元定着を学生目線で推進する基幹となる取組みという事で注目しています。（特に学生目線でという点で）

今後の取り組みとしては、学生と企業による実行委員会組織の発足、学生が企画段階からコミットできるような取組については、これから発展させていってほしいと思います。

人生 100 年時代学び直しプロジェクトについては、自分もシルバー世代になって、学びたいという気持ちはあるものの、今の AI の扱いについては及び腰になってしまいがちなので、今回の生涯学習のつどいⅠⅡの企画はとてもよかったと思いました。福島市は今デジタル化を推進していて、様々な分野の方に参加してもらってふくしまデジタル推進協議会を立ち上げているので、そこと共同でできることもあるのではないかと思います。（自分は現在、保育の分野で協議会の会員になっています）